

柏厚生総合病院 外科系後期研修プログラム

当院外科の提供する後期研修プログラムは、卒後3ないし4年目、厚生労働省指定臨床研修修了からの3年間であり、下記に示す、外科系および消化器系の認定医、専門医の資格の修得を目標とする。このため、3年間の後期研修中に、専門分野に分かれた複数の指導教官の下、専門医資格を得るのに十分な外科系臨床経験を積むことができるように配慮する。

【目標とする外科系および消化器系資格】

- 日本外科学会専門医
- 日本癌治療認定機構認定医
- 日本消化器外科学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医

他施設と異なる特徴として、研修期間中に3～6ヶ月の研究タームを設けて、主として症例報告および臨床研究に基づいた学会発表、論文作成を指導し、全国または国際学会での発表および紙上報告を義務づけている。また、希望者には研修期間修了後の国内および海外留学を斡旋し、総じて、小さな社会だけの技術や経験のみに留まらない、標準的医療、科学的根拠のある診療から、国際社会に通用する知識と技術へと発展させる最初のステップを提供するものである。

後期研修修了後の進路として、出身大学およびその他の大学外科系教室への入局、大学院進学、一般病院への就職、当院スタッフとしての残留等、適宜相談し、必要に応じて推薦状等を発行する。

研修責任者：諏訪 達志（院長）

臨床研修カリキュラム

当院における外科診療の基本姿勢は、特別なトライアルを行うものではない代わりに都市部に立地した民間病院にありがちな消極的診療、高次の医療施設への紹介に甘んじることなく、患者に対し大学病院やがんセンターと同等なグローバルスタンダードの標準的医療を提供することである。全ての全麻定期手術にはクリティカルパスが導入されており、質の高いコメディカルと医療機器の充実に支えられている当院における外科系後期研修により、日本中の他の施設に行っても通用する医療技術を修得できるものとする。

3年間の研修期間を3ヶ月ずつの12タームに分け、必修3科目（消化管外科、肝胆膵外科、一般・乳腺外科）および任意の3科目（麻酔科、整形外科、救急医療）をローテートする。必修3科目については2タームを義務付け（初期および後期ターム）、研修3年次には研究期間として1ないし2タームを必修とする。以上、必修7～8ターム以外の5～6タームを選択タームとし、任意の3科目および必修3科目の再履修とする。

原則として必修臨床科目は連続して履修せず、期間を置いて再履修するものとする。但し、選択タームに関してはこの限りではない。各専門科目に努力目標を設け、初期、後期および選択ターム毎に最低限修得する外科手技を経験する。なお、(腹腔鏡下)虫垂切除術他緊急手術および呼吸器外科、外来小手術は専門科目には含めず、研修期間中に常時担当するものである。

【臨床カリキュラムの例1】

1年次

肝胆膵外科 (必修/初期)	一般・乳腺外科 (必修/初期)	消化管外科 (必修/初期)	救急医療 (選択)
------------------	--------------------	------------------	--------------

2年次

麻酔科 (選択)	肝胆膵外科 (必修/後期)	消化管外科 (必修/後期)	一般・乳腺外科 (必修/後期)
-------------	------------------	------------------	--------------------

3年次

一般・乳腺外科 (選択)	研究ターム (必修)	消化管外科 (選択)	整形外科 (選択)
-----------------	---------------	---------------	--------------

【臨床カリキュラムの例2】

1年次

一般・乳腺外科 (必修/初期)	消化管外科 (必修/初期)	肝胆膵外科 (必修/初期)	一般・乳腺外科 (必修/後期)
--------------------	------------------	------------------	--------------------

2年次

消化管外科 (必修/後期)	肝胆膵外科 (必修/後期)	肝胆膵外科 (選択)	肝胆膵外科 (選択)
------------------	------------------	---------------	---------------

3年次

消化管外科 (選択)	麻酔科 (選択)	研究ターム (必修)	研究ターム (選択)
---------------	-------------	---------------	---------------

1. 消化管外科：2ターム必修

指導教官：諏訪 達志（院長）、岡田 慶吾

食道、胃、小腸、結腸、直腸、肛門の外科を専門とし、初期タームでは手縫いの消化管吻合の基本と消化管悪性腫瘍取り扱いを身につける。後期タームでは器械吻合まで技術の幅を拡げ、選択タームでさらに高度な技術を修得する。

【努力目標】（執刀医として）

初期ターム：	胃十二指腸潰瘍穿孔閉鎖術 幽門側胃切除術（開腹下） 小腸部分切除術 イレウス解除術 腹腔鏡下虫垂切除術 右半結腸切除術（開腹下） 左半結腸切除術（開腹下） S状結腸切除術（開腹下） 人工肛門造設術
後期ターム：	胃全摘術（開腹下） 直腸前方切除術（開腹下） 痔核／痔瘻根治術
選択ターム：	食道亜全摘術 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア根治術 内視鏡的胃粘膜下層剥離術 胃全摘脾合併切除術 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術 腹腔鏡補助下結腸切除術 腹会陰式直腸切断術 経腹経肛門直腸切除術

【消化管外科 年度別全麻症例】

	平成21年度	平成22年度
食道亜全摘術	4	6
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア根治術	2	10 (10)
内視鏡的胃粘膜下層剥離術	14	15
幽門側胃切除術胃切除術（腹腔鏡補助下）	22 (3)	22 (4)
胃全摘術	7 (0)	8 (2)
虫垂切除術（腹腔鏡下）	38 (12)	49 (36)
結腸切除術（腹腔鏡補助下）	27 (7)	37 (19)
直腸前方切除術（腹腔鏡補助下）	10 (0)	9 (2)
全麻手術小計	157 (27)	216 (73)

2. 肝胆膵外科：2ターム必修

指導教官：十束 英志（部長）、松村 知憲

肝、胆道、膵の外科を専門とし、初期タームでは肝胆道の解剖を理解し、胆嚢ドレナージ、腹腔鏡下胆嚢摘出術を修得、後期タームでは胆道ドレナージ、内瘻化に技術の幅を拡げ、胆道手術と単純肝部分切除術を修得する。選択タームでは肝区域切除術、腹腔鏡下胆道手術、膵手術を経験する。また希望者は関連施設にて生体肝移植の臨床を経験する。

【努力目標】（執刀医として）	
初期ターム：	経皮経肝胆嚢ドレナージ術 腹腔鏡下胆嚢摘出術
後期ターム：	経皮肝生検 肝腫瘍ラジオ波焼灼術 腹腔鏡下肝嚢胞開窓術 単純肝部分切除術 経皮経肝胆道ドレナージ術 胆道内瘻化、ステント留置術 腹腔鏡下胆道造影
選択ターム：	肝外胆管切除肝管空腸吻合術 肝部分切除術 肝区域切除術 肝葉切除術 腹腔鏡下総胆管切石術 膵体尾部切除術 膵頭十二指腸切除術

【肝胆膵外科 年度別全麻症例】

	平成21年度	平成22年度
肝部分切除術	9	6
肝葉／区域切除術	11	4
肝腫瘍ラジオ波焼灼術	2	5
腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	3	3
胆嚢摘出術（腹腔鏡下）	93（82）	81（72）
総胆管切石術（腹腔鏡下）	7（2）	13（5）
肝外胆管切除術	12	1
膵頭十二指腸切除術	11	11
膵体尾部切除術	2	2
全麻手術小計	154（87）	126（80）

3. 一般・乳腺外科：2チーム必修

指導教官：朝蔭 直樹（部長）、苅込 和裕（部長）、中村 直和

乳腺、甲状腺、鼠径ヘルニアに加えて、末梢血管手術（下肢静脈瘤手術）を担当する。初期チームでは単純乳房切断術、甲状腺部分切除術、ヘルニア根治術を修得し、後期～選択チームでは腋窩リンパ節郭清を伴う乳房切断術および乳輪温存乳腺部分切除術、腹腔鏡下ヘルニア根治術、下肢静脈瘤根治術、末梢血管シャント手術を経験する。

【努力目標】（執刀医として）	
初期チーム：	単純乳房切断術 甲状腺部分切除術 鼠径ヘルニア根治術（前方）
後期チーム：	乳房切断術（腋窩郭清を伴う） 下肢静脈瘤根治術
選択チーム：	乳輪温存乳腺部分切除術 腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術

【一般・乳腺外科 年度別全麻症例】

	平成21年度	平成22年度
乳房切断術	11	12
乳房温存乳腺部分切除術	6	10
甲状腺、副甲状腺手術	9	9
鼠径ヘルニア根治術（腹腔鏡下）	37 (3)	54 (19)
他のヘルニア根治術	7	14 (1)
下肢静脈瘤根治術	1	10
全麻手術小計	108 (3)	134 (20)
外科全麻手術症例合計	389 (125)	444 (176)

()内は鏡視下手術

4. 麻酔科：任意選択チーム

指導教官：岡村 徹（部長）、元村 裕二

5. 整形外科：任意選択チーム

指導教官：小野 智敏（部長）、國府 幸洋（部長）

6. 救急医療：任意選択チーム

指導教官：外科 諏訪 達志（院長）、苅込 和裕（部長）、中村 直和、
松村 知憲
内科 山吹 啓介（部長）、新里 高広
脳外 中澤 照夫

主として救急外来を担当し、該当科指導教官に報告、指示を受けて対応する。他院（慈恵医大救急部、名戸ヶ谷病院、千葉愛友会病院、千葉西総合病院 など）に紹介転送となった場合には、随時、同行して診療内容を見学する。

7. 研究ターム：1ターム必修

指導教官：諏訪 達志（院長）、朝蔭 直樹（部長）、十束 英志（部長）

原則として研修3年次の連続した1ないし2タームで、外来および救急を担当しながら病棟フリーとし、主として症例報告や臨床検討に基づいて、研究のプランニング、論文検索の方法、データの統計解析、スライド作成、論文作成法を修得し、ターム期間中または修了後に学会発表、論文投稿が義務づけられる。

【目標とする学会発表】

- 日本外科学会総会
- 日本消化器外科学会総会
- 日本臨床外科学会総会
- 日本内視鏡外科学会総会
- 日本消化器病学会総会
- International College of Surgeons
- International Gastro-Surgical Club
- International Hepato-Pancreato-Biliary Association 他

【目標とする誌上報告】

- 日本外科学会誌
- 日本消化器外科学会誌
- 日本臨床外科医学会誌
- 日本内視鏡外科学会誌
- 日本消化器病学会雑誌
- Surgery Today
- Hepatogastroenterology
- Journal of American Collage of Surgeons
- Hepatology
- Journal of Gastroenterology 他

研修終了後について

後期研修修了後の進路として、出身大学およびその他の大学外科系教室への入局、大学院進学、一般病院への就職、当院スタッフとしての残留等、適宜相談し、必要に応じて推薦状等を発行する。また、希望者には研修期間修了後の国内および海外留学を斡旋する。

【主な国内留学および入局先】

- 国立がん研究センター
 - 慶應義塾大学外科
 - 東京女子医科大学第3外科
 - 順天堂大学肝胆膵外科
 - 弘前大学医学部第2外科
- 他

【主な海外留学派遣先】

- 米国 Pennsylvania州 University of Pittsburgh Medical Center, Thomas E Starzl Transplantation Institute.
 - 米国 Florida州 University of Miami, Jackson Memorial Medical Center. Department of Surgery, Division of Liver / Gastrointestinal Surgery.
 - 米国 Maryland州 Johns Hopkins University School of Medicine, The Divisions of The Department of Surgery.
- 他

外科系後期研修募集要項

1. 応募資格

医師免許取得後2年以上の厚生労働省指定卒後臨床研修修了または修了見込みの者

2. 研修期間

平成24年（2012年）4月から平成27年（2015年）3月まで

3. 募集人員

2名

4. 出 願

研修期間開始まで随時受付

5. 応募手順

- 1) 見学期間：
- 2) 出願書類：履歴書、医師免許（写）、臨床研修修了証
- 3) 選考方法：研修指導責任者および当院院長による面接

6. 処 遇

- 1) 身 分：期限の定められた常勤職員（レジデント）
- 2) 給 与：年俸 750万円（医師免許取得後3年目）
775万円（同4年目）
800万円（同5年目）
- 3) 手 当：当直手当、時間外手当、通勤手当・住居手当 他
- 4) 保 険：各種保険加入

7. お問い合わせ

〒277-8551

千葉県柏市篠籠田617番地

柏厚生総合病院 総務課 採用係

TEL：04-7145-1111 FAX：04-7143-8637

E-mail：kkgh@basil.ocn.ne.jp